

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科
保健	必修	1	1	普通科

科目の概要	・生涯を通じた健康や体育・スポーツの基礎として、それらを多様な視点からとらえられる行動が身につけることができる。 ・保健体育の学びが将来の生活のために役立つだけでなく、ともに生きる人々の健康づくりや体育・スポーツ活動にも生かしていけることを身につけることができる。			
教材名	教科書	現代高等学校保健体育（大修館保体701）		
	副教材	現代高等保健体育ノート改訂版（大修館保体701）		
担当者		谷口、肥田、目代		
学習到達目標		・個人および社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践しようとするができる。 ・健康・安全の意義を理解するとともに、「現代社会と健康」について課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけることができる。 ・心身の健康や安全に関する課題解決を目指し、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を身につけることができる。		
学習方法		・保健では、授業を通して保健の見方・考え方を働かせながら、健康についての自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための活動の充実を図っていく能力を身につけていくことを目標とする。		
評価基準と評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	学習内容の要約、レポート	学習内容の要約、レポート 行動の観察	行動の観察 保健ノート
	A	・各単元における個人及び社会生活における健康・安全についての知識が定着し、理解が深まっている。	・健康課題について、科学的に分析したり、自他や社会の課題を発見したり、整理したり、応用したり、評価し、筋道を立てて説明したりできている。	・保健ノート等に授業で知り得た内容を記載し、自己の体験や、資料、他者との対話などから意見を十分に表すことができる。
	B	・各単元における個人及び社会生活における健康・安全についての知識が概ね定着している。	・健康課題の解決に向けて、適切な方法を選択したり、説明したりしている。	・保健ノート等に授業で知り得た内容を記載し、自己の体験や、資料、他者との対話などから意見を表すことができる。
	C	・各単元における個人及び社会生活における健康・安全についての知識の定着が不十分である。	・健康課題の解決に向けた、気づきや説明が不十分である。	・保健ノート等の記載や取り組み、対話が不十分である。

年 間 学 習 計 画

期	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
前期	1. 現代社会と健康	・ 現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、下記の事項を身につけることができる。		学習内容の要約、レポート
	1 健康の考え方と成り立ち		1	
後期	2 私たちの健康のすがた		1	
	3 生活習慣病の予防と回復		1	
	4 がんの原因と予防		1	
	5 がんの治療と回復	ア 現代社会と健康について理解を深めること。	1	
	6 運動と健康	(1) 健康の考え方	1	
	7 食事と健康	(2) 現代の感染症とその予防	2	
	8 休養・睡眠と健康	(3) 生活習慣病などの予防と回復	2	
	9 喫煙と健康	(4) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	2	
	10 飲酒と健康	(5) 精神疾患の予防と回復	2	
	11 薬物乱用と健康		2	
	12 精神疾患の特徴	イ 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。	1	
	13 精神疾患の予防		1	
	14 精神疾患からの回復		1	
	15 現代の感染症		1	
	16 感染症の予防		2	
	17 性感染症・エイズとその予防		2	
	18 健康に関する意志決定・行動選択		1	
	19 健康に関する環境づくり		1	
	2. 安全な社会生活	・ 安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、下記の事項を身につけることができる。		
	1 事故の現状と発生要因		1	
	2 安全な社会の形成		1	
	3 交通における安全		1	
	4 応急手当の意義とその基本	ア 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。	2	
	5 日常的な応急手当	(1) 安全な社会づくり	1	
	6 心肺蘇生法	(2) 応急手当	2	
		イ 安全な社会について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。		